

未来づくり懇談会（豊田）会議録

日 時：平成29年9月26日（火）

18：30～19：46

場 所：豊田自治公民館

出席者：市長、教育長、総合政策部長、

1 開 会 18：30 進行：秘書広報課長

2 あいさつ 矢板市長

3 出席者紹介

4 矢板市設定テーマ

○持続可能な矢板東部地区のまちづくりについて

・資料に基づき、人口・高齢化率推移等を説明

5 意見交換

Q1 通学路の交通量が多い。また道も狭く、スピードを出す。くらし安全環境課から看板設置やスクールゾーン表示など警察や建設課にお願いしてもらっているが、具体的にどうなっているかは分からない。

A1 スクールゾーンの設定は、学校中心に500m範囲。道路幅が1.5m以上で標識設置し、さらに幅員が広いとスクールゾーンの標示を入れることができる。

危険地域の把握をした後、通学安全対策推進協議会を毎年1回開催しているので議題としてあがれば、より具体化する。来年度、会議の議題になると具体化が進むのではと思う。しかし、決定しても警察で設置を決定しないと進まない。

また、注意喚起するのも必要だが、豊田地区が抜け道扱いされないような国道4号のバイパス化や拡幅が必要と思う。

Q2 豊田と成田の間にある増禄（ましろく）地区の道路について、今から45年くらい前に私たちが寄付をして道路を作ったが、今はダンプが通って簡易舗装が傷んで砂利道のようになっており困っている。

A2 申し訳ない一方でお金がないのも事実。道路整備の予算は限られた中で優先順位をつけながら少しずつ実施している。また、資材などを市から提供し、地元の方が施工する制度もある。まずは現地を確認する。

Q3 防災無線が聞こえない。スピーカーの向きを変えてほしい。

A3 防災無線は聞こえないという一方、うるさいとの話がある。音声電話サービス

やメール配信サービスを活用してほしい。年明けに、くらし安全環境課で聞こえにくさ調査を全域で調査する。向きを少し変えるのは対応できるかもしれないのでくらし安全環境課に伝える。

平成 29 年 5 月	防災行政無線放送確認電話番号のチラシを全戸配布
平成 29 年 6 月	防災メール登録及び防災行政無線放送確認電話番号のチラシを全戸配布。
平成 29 年 11 月	防災行政無線放送確認するためのフリーダイヤル（通話料無料）電話番号のチラシを全戸配布。
平成 30 年 1 月	防災行政無線の聞こえ方調査を実施

Q 4 西小学校が近く廃校になると聞いた。廃校になると豊田小学校が一番少ないということになる。今後の方針、流れをお聞かせ願いたい。

A 4 西小学校の廃校はまだ未決定。アンケート調査を行い、報告などのやり取りの中で、仮に廃校になったときの話はしているが、廃校が決まったとか、いつまでに廃校ということは決まっていない。

平成 29 年 3 月に公共施設総合管理計画の中で、延べ床面積ベースで 40% を削減するという話になった。学校施設も同じで計画に従って学校も考えていかなければならないが、学校はいろいろな要素があり、簡単には決められないので、小中学校の適正配置検討委員会を来年度設ける。

平成 29 年 10 月	矢板小への統廃合 合意
平成 29 年 11 月	平成 31 年 3 月閉校で教育委員会議決、市議会報告
平成 30 年 3 月	矢板市公共施設再配置策定計画を策定
平成 30 年 6 月	矢板市立小中学校適正配置検討委員会を設置

Q 5 小中学校の適正配置に関して検討委員会を作られるということだが、学校経営、マネジメントという意味で効率がいいのか悪いのか。現場の教師の教育の面と財政面とあるが、市としては今後どのような考えがあるか。また豊田っ子ふれあいスクールのサポーターも年々高齢化して困っている。

A 5 効率性の点では、市内の小中学校合わせると 116 学級あり、2477 人くらいの児童生徒が学んでいる。1 クラスあたり 21.4 人は非常に少ない。教室が多いということは、いろいろなコストがかかるし、常日頃の校舎や体育館の維持管理にもお金がかかる状況。東部地区でいうと沢の農業改善センターも対象になる。小中学校は地域社会のシンボルという位置づけもあるので慎重に行う。

教育的にみると、豊田小学校は今 1 年生が 8 人、2 年生が 14 人ということで、規約上担任は 1 人ずついる。3 年生以上は 1 クラス 8 人という前提があるので、3、4 年で 1 クラス、5、6 年で 1 クラスの複式。県から教員は 4 人しか来ていない。2 人は市で雇用している。文科省では小学校は 2 クラス以上が理想的だと言っている。愛校も子どもたちには必要だが、統合も教育的に考えていかなければならないと思う。

今年4月から豊田っ子ふれあいスクールに指導員を2名配置した。放課後子ども教室は、地域の皆さんがボランティアで子ども見るのが大原則だが、指導員を配置した。乙畑小学校にも1名配置した。

Q 6 教育効果で考えると、矢板市の財産である子どもたちの教育を真剣に考えてほしい。公共施設再配置計画は30年計画だが、30年先では今の子ども達は40歳を過ぎて、ピークを過ぎた人になってしまう。やはり3年とか5年とかということで、今、矢板市にできることを考えてほしい。

A 6 小さな学校なりの利点もあり、成果を上げている部分もある。少人数なので目が届くのは非常に効果的。逆に3人しか子供がいないと、3人の考えしかないのでコミュニケーション能力や学びあいなどが育ちにくい。将来的な話になるが、パソコンがタブレット型になり1対1のやりとりが先生とできるとか、大きい人数でも少人数指導ができる形になってきている。小さいというのは教育的に不利な形になってきている。